



「多様性」という言葉の裏で

高富中学校2年 根木 葵

「今は多様性の時代」そんな言葉を聞いたことはありませんか。私は、よくあります。学校やSNS、最近では学校で特に耳にする機会が多いです。

みなさんには、こんな経験がないでしょうか。多数決で手を挙げる時、本当は賛成ではなかったのに、周りのみんなが手を挙げていたから自分も挙げてしまった。友達とSNSでやり取りをしている時、本当は共感できなかったけれど、その場の雰囲気に合わせて同意してしまった。口先では「多様性」という言葉を使うけれど、実際のところは、こうした状況がいたるところで起こっています。

その原因は、他の人と少し違うことに不安を感じているからだと思います。私たちが生きている時代は、周りの人と同じ意見でなければならぬという同調圧力に溢れているのではないのでしょうか。

私は以前、「出る杭は打たれる」という言葉を実感した経験があります。私は小学生の時、学級長を務めていました。授業中にクラスが騒がしければ、「静かにするよ。」「話ちゃんと聞くよ。」と呼びかけをしました。しかし、クラスのためを思っていることが多々ありましたが、良かれと思って出た行動が自分を傷つける結果になってしまいました。

きなショックを受けました。その出来事によって、トラウマを抱えてしまい、克服するまでの間、みんなと違う意見を話すことやみんなと違う行動をすることが怖くなってしまいました。私はその時、たとえ正しい行動であっても、周囲にとって都合が悪かったり、周囲にこの子は空気を読まない子だと感じられたりした時、受け入れてはもらえないのだと身をもって体感しました。たった一度の経験で、こんなにも他の人と違う行動をするのが怖くなってしまったのだと痛いほど感じました。

私はその経験から、「多様性」とは何だろう、と考えるようになりました。「多様性」とは、自分の意見を素直に表現することのはずです。「多様性」を認める社会とは、私が経験したように、素直な意見を表現することで、傷つくことを覚悟して生きていく社会なのではないでしょうか。もし、そうであれば、それは誰もが幸せな社会だと言えるのでしょうか。頭の中でぐるぐると「多様性」について考えていた時、ふと、自分なりの答えにたどり着きました。それは、自分の意見を素直に表現したとしても、傷つくことのない社会です。こうした社会を生み出すためには、どんな意見でも受け入れられる空気づくりこそが大切なのではないかと考えます。自分と違う意見を非難し、人格

を否定する土壌では、何かを言ったら否定されるのではないか、という恐怖心がその場を支配します。その結果、浮きたくない、変わっている人と思われたくないと、周りに合わせることをばかりを考えるようになり、肝心の「本心」はどこかに消え去ってしまいます。反対に、周りと違う意見を持ち、それを素直に表現したとしても、受け入れ、違いを認め合うような空気づくりをすることができれば、多様な意見が飛び交う、活気のある社会になるのではないかと思います。

空気は一人でつくることはできません。その場にいる一人一人が他者の意見を認める意識をもつことで、優しく温かな空気がつくられるのだと思います。そうした空気を生み出すために、まずは自分から相手の話に耳を傾け、受け入れる意識を大切にしていきたいと思います。本心を語り合える素敵な「多様性」社会を共につくっていきませんか。

令和8年度 山県市少年の主張大会

市少年の主張大会で優秀賞に輝いた2人の生徒の作品を紹介します。



あなたの人生を楽しんで

高富中学校2年 竹村 汐梨

皆さんには、楽しいと思えることがありますか。勉強でも、スポーツでも、自分が楽しいって感じられることがあるのは、素敵なことだと思います。私にとって、楽しいことは、ダンスをすることです。

私とダンスとの出会いは、年長のときです。

「近くの体育館でダンスやってるから、行ってみようか。」

お母さんの、このたった一言から始まりました。小さい頃から、体を動かすことが大好きだった私にとっては、遊びの延長でした。このとき、まさか、私の人生が変わるなんて夢にも思いませんでした。

習い始めた頃は、なんとなく踊っていて、練習も正直「めんどくさいなあ」と思っていました。けれども、初めてステージに立ったときに、「みんな音楽と一緒に踊るのってこんなに楽しいんだ。」と感じました。そして、踊った後、ずうっと笑顔になって、最高の気分でした。このときの気持ち、ダンスを続けられる基になっているのだと思います。

「もっと、上手になりたい。」そんな憧れをもって、小学校三年生になった時、岐阜市のダンススタジオに移籍しました。ここでは、発表会専用のチームにも入ることができました。専用

チームだけあって、先生は、とても厳しくて、やり直しや細かい指摘をされます。「ダンスが嫌だ。」そんな気持ちも何度もわいてきました。と同時に、そんなことを思ってしまう自分が悔しくて、泣きながら、できるようにするまで練習をしました。そのときの気持ちは、今でもはっきりと覚えています。

小学校五年生のとき、コンテストにも出場する「選抜キッズオーディション」がありました。私は、オーディションを受けるか悩みました。悩んだ末に出した答えは「もっとダンスが上手になりたいし、違う世界を見てみたい。」でした。全力でオーディションに向かいました。合否発表の日、お母さんの携帯に連絡が届いていました。「合格」です。認められたことや、選抜チームで練習ができることなど、いろいろなことが嬉しくてたまりませんでした。選抜チームでの振り入れは、やっぱり難しいものでした。しかし、ここでの練習は、みんな目標に向かって取り組んでいたの、ちょっとしたでもできるようにになると、大きな喜びになって、楽しいものでした。そんな気持ちがあつたおかげで、練習をがんばり続けることができました。

中学校一年生になって、コンテストで、一人で踊って、戦っている人たちを「カッコいい」と思うようになりました。

た。勇気を振り絞って、「ソロで踊って戦いたい。」と先生にお願いしました。難しいことは分かっていたのですが、けれども、挑戦してみたかったです。一人だけで戦うダンスは思った以上にハードな練習でした。初めてということもありコンテストに何度も挑戦をしました。その結果、中部地区のソロコンテストで優勝、そして優勝者が集まる全国大会で優勝を遂げることができました。私の目標を遥かに超えるほどの賞と結果がもたらえて、私自身もびっくりしています。そして、今まで頑張ってきた自分を誇らしく思います。やっぱり、私はダンスが好きです。嫌とかめんどくさいと思うこともあったけど、楽しいから、ここまで本気で、全力でダンスと向き合ってきた。今も、これからもダンスと人生を歩みたいと思っています。

もう一度聞きます。皆さんには、楽しいと思えることがありますか。まだないと答えた人、大丈夫です。いろいろなことに挑戦して、自分の好きなことを、焦らずに見つけてみてください。あると答えた人は全力で向き合ってください。これからも楽しんでください。私のように人生が本当に変わりますよ。あなたの人生を思いっきり楽しんでください。